

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

荻原久雄

○福井県坂井市

学力向上に向けた取り組み及び教育環境の整備について

【所見】

坂井市は福井県の北部に位置し、福井市に隣接している。観光は東尋坊、丸岡城、漁業では越前ガニ、農業ではコシヒカリの発祥の地として有名だ。旧4町が合併して2006年坂井市が誕生した。

坂井市丸岡南中学校にて教育委員会より、坂井市の教育について、丸岡南中学校より、教科センター方式について伺った。

平成29年度全国学力・学習状況調査において、坂井市は小学校、中学校ともいずれの教科も全国平均を大きく上回っている。学力向上に向けて福井県学力調査と坂井市学力調査を実施しており、その結果を分析し、授業改善プランを作成している。また、坂井市確認テストを小学校1年生から6年生に実施しており、漢字の読み書き、計算を中心とした算数の基礎問題を市の教員チームが独自に作成し、冬休み明けに実施している。

各学校では始業前の20分、朝学習・朝の一斉読書を行っている。また、書く習慣を身に着けるため、NIE(教育に新聞を取り入れた活動)、自主学習ノートにチャレンジしている。研修推進体制では授業名人による授業公開し、また、全教員が年一回以上授業公開をしいる。

家庭との連携では、ノーテレビ・ノーゲームデーを家族で実践し、宿題が充実している。転入した保護者からは宿題が多いと評判である。地域のボランティアによる読み聞かせ、校外学習、図書室の整備、米作り・野菜作りの指導をお願いしている。

中学校の先生は、1学年だけでなく、3学年をそれぞれ担当し、先輩教員とアイデアを出し合い、3年間の学びの見通しを持って指導している。

丸岡南中学校は、教科センター方式を実施している。丸岡中学校が生徒数1,000人と過大規模になり、2005年分離する形で新設された。この方式にするには、学校建設から変えていかなければならない。生徒は自分の教室を持たず、各教室へ移動し授業を受ける。教科ごとに場所(スクエア)が分かれており、先生もそのスクエアにいる。できる限り仕切りを少なく設計されており、体育館を中心にその周りに配置されている。ホーム教室がない代わりに、ホームベースという各自

のロッカーが備えられたスペースが設置され、学年を超えた交流がしやすい。また、生徒全員と一緒に昼食をとることができるランチルームが設備されている。いじめ、校内暴力はないそうである。校長先生が生き活きと校内を案内してくれたことが印象に残った。足利市でも少子高齢化の中、小中学校の合併の議論が必ず起こる。その時のために研究する価値がある。

○石川県小松市

企業立地支援制度について

【所見】

小松市として言えば、建設機械メーカーのコマツの発祥の地であり、駅前には南米チリで活躍している、コマツの無人超大型ダンプトラック930Eが展示されている。積載量297トンである。その隣には、小松村田製作所があり、企業城下町の印象である。

商工労働課から説明を聞くと、印象は違った。確かに世界的な建設機械メーカーが生まれ、その協力企業等によって機械産業を中心とした産業クラスターが形成されているが、もとは職人の街であり、繊維産業が栄えており、中小零細企業がたくさんあり、足利市と似ているところがある。最大10億円（県制度との併用で最大50億円）の企業立地助成金や低利融資などの優遇制度を設けており、その他の企業支援施策とともに、企業の立地をサポートしている。

その内容は製造業から、物流、サービス業まで、多岐にわたり、きめ細かな支援が行われている。また、小松空港があり、北陸新幹線が開通する予定である。国、県と協力しながら企業誘致に努力している。

産業クラスターとして、現在有する企業の特徴を生かし、対象業種を広げているのが理解できる。企業が新しく進出する条件として、その土地にその企業が必要とする人材がいるか、その企業と取引できる企業が近隣にあるかが重要だと思う。改めて時代を担う人材の教育が必要だと感じた。